

[様式 9 - 1]

## 福祉サービス等第三者評価結果

## 総合評価

受診施設名	京都市常磐野児童館	施設種別	児童館
評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」		

平成27年 2月13日

総 評	<p>京都市常磐野児童館は、東には東映太秦映画村があり、西には観光名所の嵐山がある右京区の京都市立常磐野小学校内に設置されています。</p> <p>地元の強い要望を受けて、児童数の減少による空き教室を児童館として転用し、平成8年4月に開設されました。当初は、地域の関係団体長から構成される運営委員会が運営主体の児童館であったが、平成23年度より社会福祉法人宏量福祉会が指定管理者となり運営されています。旧運営委員会を構成していた関係団体のメンバーがそのまま、児童館運営協力会として残り、児童館を見守り、地域との連携を図っています。</p> <p>学童クラブの定員は60名で、対象は小学1年～3年生（障がいのある子は小学4年生）、児童館の定員は定めがなく0歳～18歳までの児童及び保護者等が対象です。学童クラブの他に、乳幼児対象の「あそびの広場」「ひよこクラブ」「くまクラブ」、小学生対象の「工作実験クラブ」「切り絵クラブ」「切り紙クラブ」、中高生対象の「アフター5は卓球タイム」等を実施しています。その他にも、毎月定例で「おはなし広場」「トランポリンの日」「将棋道場」「映画会」等の実施や、年間行事として「遠足」「観劇」「昼食作り」「剣玉検定」「納涼まつり」「クリスマス会」「お別れ合宿」等を企画して、全ての児童に健全な遊び場を与え、その健康増進を支援しています。館内の限られたスペースを工夫しながら活用し、様々な遊びや企画を考えて、障害のある児童も含めた数多くの児童を受入れていることは大変評価できます。また、年間延べ人数400名以上のボランティアを受入れ、民生児童委員協議会や地域女性会等の地域の関係団体からも支援されていることは、地域に根差した児童館の証であると感じました。職員は京都市児童館学童連盟が提供する研修に積極的に参加して専門性を養われています。また、職員間のコミュニケーションもしっかりとれており、先輩職員の指導やアドバイスを受けて若手職員が意欲的に仕事に取り組まれる姿勢にも好感を持ちました。</p> <p>その反面、管理者の責任とリーダーシップや人事管理体制の整備、サービスの質の向上に向けた取り組み、標準的なサービスの実施方法の確立等には課題が感じられました。</p> <p>今後は、評価の中で課題に感じた項目に優先順位をつけながら、改善していかれることを期待します。</p> <p>具体的なアドバイスを下記に記します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 管理者の行動が職員や利用者から信頼を得ているかどうかを把握するための方法は確認できませんでした。職員や利用者から管理者への意見や評価に関する項目を記載したアンケートを実施されては如何でしょうか。</li> <li>・ 標準的な支援方法や事業内容を職員間で話し合い、サービス提供されていましたが、業務マニュアル等の文書化が不十分でした。業務や行事企画等の手順を洗い出し、マニュアル策定されては如何でしょうか。サービスの質の標準化に繋がると考えます。</li> </ul>
--------	--

<p>特に良かった点 (※)</p>	<p><b>II-4 地域との交流と連携。</b>  児童館が小学校の校内にあるため、小学校で実施する学区のお祭りや少年補導の催しに参画する等、地域との良好な関係を保っている。  小学校のPTA、放課後まなび教室実行委員会等と定期的な懇談を実施し、民生児童委員協議会や地域女性会、自治連合会等の各種団体代表者が参加する運営協力会を年6回開催している。お話の会や障害児介助等のボランティアを受入れている。乳幼児クラブの登録保護者アンケートでの意見を基に、子育て講座の開催やランチタイムの実施、育児書の設置等の取組みを行っている。</p> <p><b>III-1-(2)利用者満足度の向上に努めている。</b>  学童クラブ保護者懇談会や児童館運営協力会を開催し、利用者の意向を聴取する時間を設けて把握に努めている。希望に応じて、個人懇談をいつでも実施している。行事やイベント企画のたびにアンケートを実施し、利用者の声を次の行事内容に反映している。保護者懇談会での意見を取り入れて、行事を企画している。保育所探しの相談には子育て応援マップの配布やファミリーサポートの紹介を行う等、利用者が必要な情報を提供している。</p> <p><b>A-2 乳幼児と保護者への対応</b>  0～1歳児対象に「ひよこクラブ」、2歳児以降対象に「くまクラブ」、乳幼児と保護者が自由に来館できる「遊びの広場」を開催している。保健センターの1歳半検診の場で児童館のPRすることや、毎月のお便りにQRコードを入れて手軽に情報が入手できるように工夫している。利用者アンケートの内容を年間計画に取り入れ、子育て講座の開催や保健師による相談事業、お母さん向けのヨガやアロマセラピー活動、お父さん向けの珈琲サロン等を実施している。  学童クラブでの「親子親睦バーベキュー」や「納涼まつり」、乳幼児クラブでの「にこにこママの日」等、保護者が企画運営し、職員と協働で行う行事が開催されている。</p>
<p>特に改善が 望まれる点(※)</p>	<p><b>I-3-(1) 管理者の責任が明確にされている。</b>  「京都市児童館活動指針」の中で管理者の職務と役割・責任が明確になっており、職員にも周知されている。しかし、管理者の行動が職員や利用者から信頼を得ているかどうかを把握・評価するための方法が構築されていない。また、管理者は児童館経営に関する研修会等に参加して遵守すべき法令を職員に伝えているが、関係法令のリスト化が出来ていない。</p> <p><b>II-2-(1) 人事管理の体制が整備されている。</b>  児童館運営に必要な有資格者の配置等、人員体制に関するプランは確立されている。しかし、人事管理に関する方針が明文化されておらず、プランに基づいた人事管理は実施されていない。人事考課の目的や効果を理解して職員面談も行っているが、人事考課制度は導入していない。</p> <p><b>III-2-(2) 個々のサービスの標準的な実施方法が確立している。</b>  事業内容やサービス方法等の標準的な方法を職員間で話し合い、個別に伝達しながらサービス提供している。しかし、マニュアル等の文書化や定期的な見直しは出来ていない。</p>

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

# 京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

---

## 【共通評価基準】 児童館版

### 評価結果対比シート

---

受診施設名	京都市常磐野児童館
施設種別	児童館
評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」
訪問調査日	2014年12月5日

## I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
I-1 理念・基本方針	I-1-1(1) 理念、基本方針が確立されている。	① 理念が明文化されている。	b	a
		② 理念に基づく基本方針が明文化されている。	b	a
	I-1-1(2) 理念、基本方針が周知されている。	① 理念や基本方針が職員に周知されている。	b	a
		② 理念や基本方針が利用者等に周知されている。	b	a
I-2 計画の策定	I-2-1(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	① 中・長期計画が策定されている。	c	a
		② 中・長期計画を踏まえた事業計画が策定されている。	c	a
	I-2-1(2) 計画が適切に策定されている。	① 計画の策定が組織的に行われている。	b	b
		② 計画が職員や利用者等に周知されている。	b	a
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	I-3-1(1) 管理者の責任が明確にされている。	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明している。	b	b
		② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	b	b
	I-3-1(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	b	b
		② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	b	a

## [自由記述欄]

I-1-1(1)	①「京都市児童館活動指針」に基づいた独自の理念（「地域におけるすべての子供の家庭とウェルビーイングの促進」）を明文化し、利用案内パンフレットにも記載して利用者等に周知している。 ②理念と整合性のある3つの基本方針を明文化して、利用案内パンフレットや「ときわのじどうかんニュース」に掲載している。
I-1-1(2)	①理念や基本方針を入職時に説明すると共に、職員会議等でも確認して職員に周知している。 ②理念や基本方針を館内に掲示したり、パンフレットに掲載して利用者等に周知している。地域関係団体の代表者で組織する「児童館運営協力会」の中で、法人の事業計画や事業報告等をまとめた冊子を毎年配布して説明・周知している。
I-2-1(1)	①理念や基本方針の実現に基づき、平成22年に中・長期計画を策定している。中・長期計画は5年毎に見直し策定している。 ②中・長期計画に基づいた事業計画を毎年策定し、課題解決を図っている。事業計画には、地域との連携や質の向上、事業の数値目標等が明記されている。
I-2-1(2)	①毎月の職員会議等で話し合い事業計画を策定している。毎年末に計画の実施状況の把握をし、事業報告書を作成している。しかし、事業計画や中・長期計画に前回の計画課題が反映されてるかは確認できなかった。 ②事業計画をわかりやすい内容にしたお便りを作成して利用者等に配布している。事業計画を学童クラブや保護者懇談会、児童館運営協力会で説明している。
I-3-1(1)	①「京都市児童館活動指針」の中で管理者の職務と役割・責任が明確になっており、職員にも周知されている。しかし、管理者の行動が職員や利用者から信頼を得ているかどうかを把握・評価するための方法は構築されていなかった。 ②管理者は児童館経営に関する研修会に参加し、遵守すべき法令等を職員に会議等で伝えている。しかし、関係法令のリスト化等の取り組み行っていない。
I-3-1(2)	①管理者はアンケート等で利用者の声を収集し、活動内容を定期的に評価・分析している。管理者は児童館の質の向上に意欲を持ち、職員と常に話し合っている。しかし、課題や改善内容の解決に向けて部下を指導・育成していくことが不十分だと感じている。 ②管理者は常に職員の出勤状況や残業状況を把握している。障がいを抱えた児童のために非常勤職員を加配する等、業務の効率化と改善に向けた取り組みをしている。

## II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
II-1 経営状況の把握	II-1-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	b	a
		② 経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取り組みを行っている。	b	a
		③ 外部監査が実施されている。	a	a
II-2 人材の確保・養成	II-2-(1) 人事管理の体制が整備されている。	① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	b	b
		② 人事考課が客観的な基準に基づいて行われている。	a	b
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	b	b
		② 福利厚生事業に積極的に取り組んでいる。	a	a
	II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	a	a
		② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	a	a
		③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	b	b
	II-2-(4) 実習生の受入れが適切に行われている。	① 実習生の受入れに対する基本的な姿勢を明確にし、体制を整備している。	b	a
② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。		b	a	
II-3 安全管理	II-3-(1) 利用者の安全を確保するための取り組みが行われている。	① 緊急時(事故、感染症の発生時など)の対応など利用者の安全確保のための体制が整備されている。	b	a
		② 利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	b	b
II-4 地域との交流と連携	II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	a	a
		② 事業所が有する機能を地域に還元している。	b	a
		③ ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、体制を確立している。	b	a
	II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。	① 必要な社会資源を明確にしている。	a	a
		② 関係機関等との連携が適切に行われている。	b	a
	II-4-(3) 地域の福祉向上のための取り組みを行っている。	① 地域の福祉ニーズを把握している。	a	a
② 地域の福祉ニーズに基づく事業・活動が行われている。		a	a	

### 【自由記述欄】

II-1-(1)	①地域の関係団体や行政、学校、保健センター等の機関と情報交換するとともに、児童館運営協力会や毎月の施設長会議で地域の課題についても把握している。 ②毎月の利用状況報告書や活動報告書をもとに職員全体で運営状況の分析をし、振り返りを行っている。把握した地域の課題や運営面で改善が必要な課題を、次の事業計画に反映させている。 ③公認会計士から指摘を受けた内容を早急に改善する等、定期的な外部監査を実施して経営改善に努めている。
II-2-(1)	①児童館運営に必要な有資格者の配置等、人員体制に関するプランは確立されている。しかし、人事管理に関する方針が明文化されておらず、プランに基づいた人事管理は実施されていない。 ②人事考課の目的や効果を理解し、職員面談等は行っているが、人事考課制度は導入していない。
II-2-(2)	①職員の就業状況や意向は個別面談等で把握されており、法人内の心理療法専門員による個別カウンセリングも実施されている。しかし、人材や人員体制に関する具体的なプランがなく、時間外労働の削減や有給取得の促進等の改善策を実施出来ていない。 ②「京都市民間社会福祉施設職員共済会」に加入し、福利厚生事業を積極的に利用出来ている。
II-2-(3)	①人材育成・研修体制の考え方が明文化され、積極的に研修参加を促している。 ②京都市児童館学童連盟による「京都市児童館・学童保育所職員研修科目履修表」に基づき、各職員の履修研修を管理し、計画的に必要な研修を受講できる仕組みがある。 ③受講した研修を報告し、他の職員に発表する機会は設けているが、受講した研修成果の評価・分析やそれに基づく研修カリキュラムの見直しは実施出来ていない。

II-2-(4)	<p>①「実習生対応マニュアル」に基本的姿勢が明確にされ、保育士や児童厚生員等の実習生を毎年受け入れている。実習指導者は「京都市児童館・学童保育職員中堅研修」を受講した一定レベル以上の職員に定めている。</p> <p>②事前オリエンテーションで実習生の学びたいことを聞き取り、実習プログラムに反映している。実習生の企画した内容を実施した後に、「振り返りシート」を記入してもらい、次のプログラムに反映している。</p>
II-3-(1)	<p>①事故発生対応や不審者対応等を定めた安全管理マニュアルや感染症発生対応マニュアル等を整備して職員に周知している。安全管理についての担当者を決めて、職員会議で定期的に話し合っている。</p> <p>②事故やケガが発生した場合は、対応状況も含めて児童館日誌に記録し、その都度対策会議を開催している。事故防止のためのチェックリストも作成している。しかし、事故事例を収集して分析し、未然防止策を検討するような取組みは行っていない。</p>
II-4-(1)	<p>①児童館が小学校の校内にあるため、小学校で実施する学区のお祭りや少年輔導の催しに参画する等、地域との良好な関係を保っている。民生児童委員協議会やPTA等の団体が開催する行事ポスター等も児童館利用者に広報している。</p> <p>②「ときわのじどうかんニュース」等の広報誌を、自治会の回覧板や小学校を通じての配布で広報している。子育て相談は随時行っており、必要に応じて専門機関を紹介したり、主任児童委員と連携している。子育て講演会等も定期的実施している。</p> <p>③ボランティア受入れマニュアルを作成し、受入れの意義を明文化して職員にも周知している。児童館・学童連盟の研修を受講した、障害児介助等のボランティアや地域のボランティアであるお話を会を受入れている。</p>
II-4-(2)	<p>①民生委員や学校長、地域女性会役員、自治連合会長等各種団体の役員リストを作成し、お便りや行事案内の送付を行う等して連携に努めている。</p> <p>②小学校、小学校PTA、民生児童委員協議会、放課後まなび教室実行委員会等と定期的な懇談を実施している。各種団体代表者が参加する運営協力を年6回開催している。</p>
II-4-(3)	<p>①民生児童委員の主催する子育てサロンに向いてニーズの把握に努めている。保健センターと連携して毎月相談事業を実施して、子育てニーズの把握に努めている。登録児童や自由来館児童の情報を小学校の先生と共有している。</p> <p>②乳幼児クラブの登録保護者アンケートでの意見を基に、子育て講座のテーマを決め開催している。保護者の希望を聞き、ランチタイムの実施や育児書の設置等の取組みを行っている。</p>

### Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果		
			自己評価	第三者評価	
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	① 利用者を尊重したサービス提供について共通の理解をもつための取り組みを行っている。	b	a	
		② 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	b	b	
	Ⅲ-1-(2) 利用者満足の向上に努めている。	① 利用者満足の向上に意図した仕組みを整備している。	b	a	
		② 利用者満足の向上に向けた取り組みを行っている。	b	a	
	Ⅲ-1-(3) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	① 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。	b	a	
		② 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	b	b	
		③ 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	b	b	
	Ⅲ-2 サービスの質の確保	Ⅲ-2-(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。	① サービス内容について定期的に評価を行う体制を整備している。	b	b
			② 評価の結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にしている。	b	b
③ 課題に対する改善策・改善計画を立て実施している。			b	b	
Ⅲ-2-(2) 個々のサービスの標準的な実施方法が確立している。		① 個々のサービスについて標準的な実施方法が文書化されサービスが提供されている。	b	b	
		② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b	b	
Ⅲ-2-(3) サービス実施の記録が適切に行われている。		① 利用者に関するサービス実施状況の記録が適切に行われている。	b	a	
		② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	b	b	
		③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	b	a	
Ⅲ-3 サービスの開始・継続		Ⅲ-3-(1) サービス提供の開始が適切に行われている。	① 利用希望者に対して活動選択に必要な情報を提供している。	b	a
	② サービスの開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。		b	a	
Ⅲ-4 サービス実施計画の策定	Ⅲ-4-(1) 利用者に対するサービス実施計画が策定されている。	① サービス実施計画を適切に策定している。	b	a	
		② 定期的にサービス実施計画の評価・見直しを行っている。	c	b	

#### 【自由記述欄】

Ⅲ-1-(1)	①利用者を尊重したサービス提供を主軸に事業計画を策定し、職員会議でも常に利用者視点にたった改善策を話し合っている。各職員が外部研修の中で人権への配慮や利用者尊重についての内容を学び、職員会議等でも報告している。 ②個人情報保護マニュアル等も整備し、職員に周知している。プライバシー保護に関しての基本姿勢を職員間共有し、面談等も他の人に聞かれないよう配慮している。しかし、施設設備として授乳室や、静養室等がなく、利用者に安心感のある環境を提供出来ていないと感じている。
Ⅲ-1-(2)	①年5回の保護者会や年6回の児童館運営協力会の中で、利用者の意向を聴取する時間を設け把握に努めている。希望があれば個人懇談をいつでも実施することを明文化している。 ②行事やイベント企画のたびにアンケートを実施し、利用者の声を次回の行事内容に反映している。保護者会での意見を取り入れて、バーベキュー親睦会を開催している。保育所探しの相談には子育て応援マップの配布やファミリーサポートの紹介を行う等、利用者が必要な情報を提供している。
Ⅲ-1-(3)	①相談しやすいように、職員側から笑顔で声掛けして日々の会話を増やすように努めている。常に複数の職員を配置し、入所のしおりや保護者会等を通じて相談相手を選べることを周知している。 ②苦情解決の体制を整備し、入所のしおり等でも利用者にも周知している。しかし、苦情内容の公表等は出来ていない。 ③「苦情解決のための実務マニュアル」は整備されているが、マニュアルの定期的な見直しは出来ていない。
Ⅲ-2-(1)	①事業所内で京都市児童館活動指針に基づく自己評価を実施している。しかし、評価結果の分析等は出来ていない。また、今回が初めての第三者評価受診であり、定期的な受診は出来ていない。 ②自己評価結果の課題は職員間で共有しているが、文書化は出来ていない。 ③自己評価での課題を職員間で話し合い、改善策を事業計画にも反映させている。しかし、取組みが単発的なものになっており、定着出来ていない取組みもある。

Ⅲ-2-(2)	<p>①標準的な方法を職員間で話し合い、個別に伝達しながらサービス提供しているが、マニュアル等の文書化は出来ていない。</p> <p>②全ての事業内容やサービス方法について職員の意見も聞きながら改善しているが、定期的な見直しは出来ていない。</p>
Ⅲ-2-(3)	<p>①サービスの実施状況は児童館日誌や学童クラブ日誌に記録している。児童日誌や障害のある児童の行動記録を作成し、一人ひとりの子どもの様子を記録している。</p> <p>②記録管理の責任者や記録の保管・保存等は定められている。しかし、情報開示を求められた場合の規程は定められていない。</p> <p>③利用者の状況は、日誌や行動記録、日々のミーティング等で職員全体で共有されている。必要に応じて事例検討会を実施している。</p>
Ⅲ-3-(1)	<p>①写真や図等も使用したホームページやパンフレット等でわかりやすく情報提供している。お便りの文面にはルビ打ちをして、児童も読みやすくしている。</p> <p>②利用開始にあたり、活動内容や利用方法について、書面で説明している。毎年、小学校新1年生向けの案内を作成したり、入学前の保護者説明会で学童クラブの案内を配布する等している。</p>
Ⅲ-4-(1)	<p>①乳幼児クラブや児童館クラブ等、活動ごとに担当者を設定して、担当者が作成した計画を職員全員で協議している。</p> <p>②活動計画書を作成し、年1回は見直ししているが、急な計画変更の手順や仕組みは整備されていない。</p>

# 京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

---

## 【付加基準】 評価結果対比シート

### 児童館

---

受診施設名	京都市常磐野児童館
施設種別	児童館
評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」
訪問調査日	2014年12月5日

## 【付加基準】児童館版 評価結果対比シート

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A 児童館等の活動に関する事項 (小型児童館・児童センター用付加基準)	A-1 遊びの環境整備	① 遊ぶ際を守るべき事項(きまり)が、利用者に理解できるように決められている	b	a
		② 乳幼児から中高生までの児童すべてが日常的に気軽に利用できる環境がある	b	a
		③ 利用者が自発的かつ創造的に活動できるように環境を整備している	b	a
		④ くつろいだり、休憩したりするふれあいスペースを作っている	a	a
		⑤ 幅広い年齢の児童が交流できる場が日常的に設定されている	b	a
<b>【自由記述欄】</b>				
A-1	①館内の各部屋や必要な場所に、守るべきルールをひらがなで書いたものを掲示している。			
	②毎号の「ときわのじどうかんニュース」で自由来館のお誘いを掲載している。自由来館者の遊び場所と学童クラブの部屋を別にして自由来館しやすくしている。乳児や幼児を対象にしたクラブや工作実験、切り絵等のクラブ活動を設定するなどして、地域の乳幼児が利用しやすいプログラム設定をしている。			
	③部屋数や面積等のハード面で制約があるため、曜日ごとに遊びの内容を分けたり、パーティションで区切るなどして、スペースをうまく活用できるよう工夫している。			
	④児童や保護者がリラックスできるように、図書室にソファを設置したり、遊戯室のフローリングを無垢材に貼り替える等の工夫を行っている。利用者の要望を取り入れて乳幼児クラブの後に遊戯室でそのまま昼食がとれるように、開始時間やスペースも工夫している。			
	⑤乳幼児とその保護者対象のクラブや学童クラブ、自由来館児童、中学生の来館など幅広い年齢の子どもが利用している。様々な行事や企画を通じて幅広い年齢の児童が交流できるように事業運営している。			
評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A 児童館等の活動に関する事項 (小型児童館・児童センター用付加基準)	A-2 乳幼児と保護者への対応	① 乳幼児と保護者が日常的に利用している	a	a
		② 乳幼児活動が年間を通じて実施されており、その内容が参加者のニーズに基づいたものになっている	a	a
		③ 保護者同士が交流する機会が設けられており、保護者が企画や運営に参加している	a	a
<b>【自由記述欄】</b>				
A-2	①午前中に0～1歳児対象の「ひよこクラブ」、2歳児以降対象の「くまクラブ」、自由に来館できる「遊びの広場」を設定しており、保健センターの1歳半検診の場で児童館のPRをしたり、毎月のおたよりにQRコードを入れて手軽に情報が入手できるように工夫している。			
	②利用者アンケートの内容を年間計画の一部に取り入れ、年6回の子育て講座や月1回の保健師による相談事業を実施している。お母さん向けにヨガやアロマを取り入れた活動を実施したり、お父さん向けに珈琲サロンを実施する等、参加者の要望を聞きながら企画を工夫している。			
	③学童クラブでの「親子親睦バーベキュー」や「納涼まつり」、乳幼児クラブでの「にこにこママの日」等、保護者が企画運営したり、職員と協働で行う行事が開催されている。			
評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A 児童館等の活動に関する事項 (小型児童館・児童センター用付加基準)	A-3 小学生への対応(核となる児童館活動)	① 職員が個々の児童の状態や心理を考慮して適切に援助している	a	a
		② 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている	b	b
		③ 障害の有無や国籍の違いを超えて、児童と一緒に遊びお互いに理解を深める取り組みが行われている	b	a
		④ 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや児童の自主性・主体性を育てることを意識して企画されている	a	a

[自由記述欄]				
A-3	①日誌や職員報告をもとに児童への対応について職員間で話し合っている。児童に対する個別・集団援助や発達理論などの研修にも参加している。			
	②職員は個別・集団援助技術を活用して児童と関わり、課題を持った児童への対応についての事例検討をしているが、記録が不十分である。			
	③児童同士の理解が深められるような遊びや行事を企画している。障害のある小学生や高校生がガイドヘルパーと一緒に児童館に遊びに来ており、安心して過ごせるように配慮している。外国籍の児童の利用はないが、文化の違いを児童に伝える工夫をしている。			
	④「工作実験クラブ」「切り絵クラブ」などのクラブ活動により、児童の自主性や主体性を育てる取り組みをしている。また、将棋道場やトランプ、映画会等を企画し、普段児童館を利用していない児童の利用につながるよう工夫している。			
評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
A 児童館等の活動に関する事項 (小型児童館・児童センター用付加基準)	A-4 中高生への対応	① 日常的に中高生の利用がある	b	a
		② 中高生が主体性や社会性を養えるような活動を継続して実施している	c	b
	A-5 利用者からの相談への対応	① 利用者からの相談への対応が自然な形で行われている	b	a
		② 虐待を受けた児童や不登校児への支援体制が整っている	b	b
A-6 障害児への対応	① 障害のある児童の利用に対する支援策が整っている	b	b	
[自由記述欄]				
A-4	①午後5時以降は中高生限定で遊戯室を利用できる「アフター5は卓球タイム」を設定しており、毎月の「ときわのじどうかんニュース」に掲載して参加を呼び掛けている。職員も中高生と一緒に卓球をして、気軽に話せる場をつくっている。			
	②中高生の児童館の利用があり、地域での活動に参画するための協力をしているが、中高生が主体的に関わる活動は実施出来ない。			
A-5	①利用者が日常的に相談しやすい環境や関係作りを努めており、内容に応じて保健センターや福祉事務所等の関係機関を紹介している。			
	②職員が受講する「児童の発達理論」の研修の中で、虐待の発見や発見後の対処について学んでいる。虐待を受けた児童や不登校児の対応に関しては、小学校や児童相談所等の関係機関との連携は確立している。しかし、不登校児の利用に対する支援の方針が明文化されていない。			
A-6	①障害のある児童の利用に対して、職員や保護者、教師を含めた支援計画があり、日常的に話し合いを行っている。学童クラブを利用している障害のある児童に対してはボランティアやアルバイトを加配して支援しているが、対象児童の人数が多く、職員の確保も難しく、十分な支援が出来ていない。			
評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
A 児童館等の活動に関する事項 (小型児童館・児童センター用付加基準)	A-7 地域の子育て環境づくり	① 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している	b	a
		② 地域社会で児童が安全に過ごせるような取り組みをしている	b	a
	A-8 広報活動	① 広報活動が適切に行われている	a	a
		② 児童館の活動内容をわかりやすく知らせ、利用促進につながるように創意ある広報活動が行われている	b	a
[自由記述欄]				
A-7	①児童館と消防分団の共催で行われる防災訓練の実施や少年補導委員会の催しに参加する等、子育て支援活動や健全育成活動に関して地域住民と連携している。			
	②「入所のしおり」の中で通学路の危険箇所を親子で確認することを記載している。保護者やPTAによる地域見守り隊等が協力し、児童が安全に過ごせるように見守っている。			
A-8	①「乳幼児クラブ」「学童クラブ」「児童館」それぞれにお便りを作成し、町内の回覧で広報している。区役所の子ども支援センターや保健センターにお便りの配布協力を依頼している。小学校の全児童や関係機関に配布する等、積極的に広報活動している。			
	②お便りには活動内容や子どもたちの様子などがわかりやすく書かれており、右京子育てサロンの案内等、関係機関の活動も紹介している。			